

第4回

路線バスネットワーク関係者協議会 参考資料

R8年3月4日



【目次】

1. 第3回協議会までに得た意見と対応
2. R7年度の実施策

1. 第3回協議会までに得た意見と対応



1. 第3回協議会までに得た意見と対応

要素① 運転士・バス車両・結節点などの資源

第3回協議会までに得た意見	対応状況
連節バスの運行については 利用者の多い区間 を走らせるのが重要	駅南方面で社会実験を実施。
市役所を結節点として折り返し、 南部へ延伸	現状、連節バスは市役所ターミナルで折り返しができないため今後検討。
駅南北に結節点を整備し、連節バスで結ぶ中で、 郊外路線は結節点に接続 することで効率化や利便性向上を図る方法	現在、郊外路線の結節点は青山のみ。
バスレーン は、交通量調査を行った上で 渋滞の発生を確認 し、検討すべき	既存バスレーンを運用中。
PTPSの導入 についても、県警と連携して検討すべき	市・新潟交通・県警で整備したPTPSの稼働状況を確認中。
運転士確保については、 運転士のイメージ向上 は必須	公民連携でポスターを製作(R6)。バスまつりを実施。
運転士の業務改善(IT化) や、 DXによる効率化 も必要	現在検討中。
勤務時間の柔軟化 、 女性職員の登用 で人材を確保	運転士の充足状況に合わせて検討。
利用者から運転士への感謝 の言葉がイメージ向上に繋がる	市報に掲載(R7.11)。公民連携でポスターを製作(R6)。

1. 第3回協議会までに得た意見と対応

要素② バス利用者

第3回協議会までに得た意見	対応状況
バス利用経験の少なさが心理的抵抗感につながるため、 幼少期からバスに親しむ習慣 を身につけることが重要	バス無料デーを実施。バスまつりを実施。
新興住宅地開発等の まちの発展に合わせて 子供が多いエリアを通るルートに変更する等、柔軟な対応が必要	運転士の充足状況に合わせて検討。
小中学生を対象にバス利用に関する 意識調査(アンケート) を実施し、関心を高める	今後、教育委員会と相談・検討。
中高生へのギフト配布は モビリティマネジメント とセットで行い、その意味をしっかりと伝えていくことが重要	R8施策では、ギフト配布とセットでMM資料の配布等を検討。
郊外路線の利用促進には、 パーク&ライド を取り入れるべき	イオン新潟青山店で社会実験を開始(R7.11～)。一部鉄道駅(巻・新津)と高速道路駐車場で社会実験を実施中。
利用データを活用した 広報・周知・ターゲティング を実施	無料デーの利用データを分析中。
公共交通を社会インフラ として市民に周知し、市の各種計画と組み合わせる中で、需要の多い黒字路線の利用を促進	南部開発による新たな都市軸の可能性と、それに対応した公共交通の整備(連節バス社会実験)。
公共施設をバスで行きやすい場所にするなど、 まちづくりと一体化 することは重要	H27市役所ターミナルの整備。
コンパクト+ネットワークはまちづくりに時間を要すが、 ウォーカーブル&ネットワーク ならすぐ可能	東大通りで社会実験を実施(R6～)。
弁天線の渋滞対策 として、一般車が弁天線へ流入しなくてもよい移動方法を検討すべき	サイクル&バスライドを実施(R7.10～)。

1. 第3回協議会までに得た意見と対応

要素③ 民間事業者としての事業継続性

第3回協議会までに得た意見	対応状況
高校生を採用ターゲットにする場合、高校生が見るサイトに採用情報を掲載し、年収のモデルケースを示すことも重要	現在検討中。
新潟市の実施する3支援は利用が進んでおり、効果も出ている	事業継続中。
運転士確保については、運転士のイメージ向上は必須(再掲)	公民連携でポスター製作(R6)。バスまつりを実施。
運転士の業務改善(IT化)や、DXによる効率化も必要(再掲)	同上。
勤務時間の柔軟化、女性職員の登用で人材を確保(再掲)	同上。
利用者から運転士への感謝の言葉がイメージ向上に繋がる(再掲)	市報に掲載(R7.11)。公民連携でポスター製作(R6)。
新興住宅地開発等のまちの発展に合わせて子供が多いエリアを通るルートに変更する等、柔軟な対応が必要(再掲)	同上。

2. R7年度の実施策と効果 (一部、本編資料再掲)



2. R7年度の実施施策

市と新潟交通の協定連携事項

事項①

路線バスの
運転士不足対策

要素①

事項②

路線バスの
利用促進

要素②

事項③

萬代橋ラインを基幹
としたサービス継承

要素③

事項④

新潟駅南北市街地
一体化に資するバス
交通の実現と向上

R7年度の実施施策

施策① 運転士確保に向けた各種支援施策

施策② バス車両の更新

施策③ 交通結節点へのアクセス機能強化施策

施策④ 未来に向けたバス利用促進施策

施策⑤ バスでお出かけキャンペーン事業

施策⑥ 高齢者おでかけ促進事業「シニア半わり」

施策⑦ スマホ教室・カロリーメイト配布

施策① 運転士確保に向けた各種支援施策

施策⑧ 区バス・住民バス運行など

施策⑨ 生活交通効率化事業

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

1 運転士確保に向けた各種支援施策

新潟市による取り組み

- 3つの支援事業施策を実施し、R6年度は大型二種8名、家賃補助4名の申請実績
- R7年度は、2月末時点で大型二種7名、移住支援3名、家賃補助6名が申請予定(採用内定者含む)
- 多面的な支援施策の実施により、運転士確保の促進に一定の効果を与えている

施策	内容・対象	申請数	
		R6	R7
大型二種免許取得支援 事業費補助金	事業者が従業員の大型二種免許取得に係る経費を負担した場合、補助金を支給 (補助率1/2、補助額 上限30万円)	8名	7名
バス運転士移住特別支援金	県外から移住を伴いバス運転士へ就業した個人に対して、支援金を交付 (2人以上の場合:50万円、単身の場合:30万円)	0名	3名
バス運転士家賃補助金	バス運転士へ就業した個人に対して、賃貸住宅に係る月額家賃の一部を補助 (補助率3/4、月額上限39,000円※最大5年間)	4名	6名

※R7申請数は2月末時点(採用内定者含む)

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

1 運転士確保に向けた各種支援施策

新潟交通による取り組み

- 運転士の採用促進や、離職防止のための処遇改善を実施
- その他、バス運転士専門の合同説明会出展や、近郊高校の就職担当員との面談や資料配布を実施
- 各種支援施策・イベント参加等による採用活動強化により、運転士確保に一定の効果を与えている

主な実施施策	内容・対象
初任給の引き上げ	(R6.4から実施)運転士初任給を 2万円増額
休日出勤手当額の引き上げ	(R7.5から実施)法定外休日に出勤した際の 手当額 を引き上げ ※割増率上積み
再雇用運転士の処遇改善	(R7.5から実施)超過労働(時間外労働・休日出勤)の協力度に応じ、臨時手当が増額される「 第二賞与制度 」を再雇用運転士対象に新設
合同説明会(バスギア EXPO)への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・東京で行われたバス運転士専門の合同説明会に出展 ・バス運転士に興味のある方、他業種からの転職や新潟への U・I ターン検討中の方に向けて、大型二種免許取得費補助のほか、新潟市による家賃・移住支援などのサポートについても説明
教員情報交換会への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の採用を目指した高卒向けの採用活動として、近郊20校の高校の就職担当員との面談や資料配布を実施
運転体験会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・運転士に興味がある人を対象とし、履歴書の提出やアンケートの記入を参加条件に追加

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

2 バス車両の更新

- コロナ禍によるバス利用者の減少に伴い、車両の更新をストップ
➔保有するバス車両の平均車齢が上昇し、修繕頻度も増加
- 修理部材の価格高騰をはじめ、バス車両の経年劣化による修繕費の増大は、路線バス事業の運営に大きな影響
- 今年度は10台の更新を実施



コロナ後、車両更新を再開するも、大幅な更新は事業者には大きな負担

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

3 交通結節点へのアクセス機能強化施策(協議会意見)

OR7.10からイオン新潟青山を対象にパーク&ライドを実施(6台分)



周辺を取り巻く状況

- ・青山停留所には西区・南区方面に向かう複数路線が停車
- ・萬代橋ライン(高頻度路線)との接続により、中心部までのアクセスが良好

目的

郊外からまちなかへの公共交通による移動の促進

効果

現在までに**利用率100%**
 ➡周辺からのパーク&ライド需要が生まれ、まちなかでの公共交通の利用促進に寄与



2. R7年度の実施施策

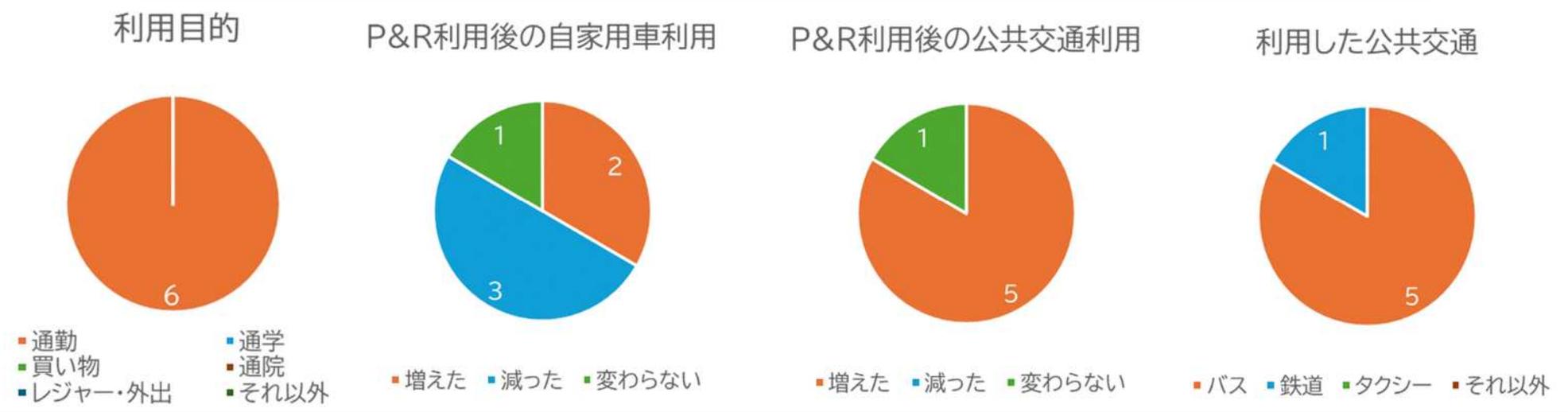
R7年度の主な実施施策

3 交通結節点へのアクセス機能強化施策(協議会意見)

パーク&ライドアンケート結果

- 参加者全員が「通勤」の目的としてパーク&ライドを利用
- 本事業により、参加者の8割が公共交通利用が増加(5/6人がバスと組み合わせて利用)
- ➡本事業の実施により、まちなかでの公共交通機関(路線バス)の利用を促進

【基礎情報】 対象者:パーク&ライド利用者 集計期間:R7.11.4~ 回答者:6人



- 公共交通の利用に関して(自由意見)
- 混んでいる、天気により遅延がある
 - これまであまり利用することがなかったが、パーク&ライドで通勤にバスを利用することで、バスの利便性を感じることができた
 - 青山まではバスが多くて便利が良い。このことから新潟駅からだけでなく各地域拠点までは大人数の輸送機関を利用し、その先の細かい場所は小型のバスなりの循環を増やせば、使いたい時間に利用出来て移動が便利になり、地域活性が進むと考えられる
 - 新潟駅-青山間は便数が多く、青山で自家用車に乗り換えられることで自宅・職場の出発時間が時刻表に縛られることがなく、ストレスがない。また、本を読むなど、移動時間に移動以外のことに時間を使えることも、自家用車と比べて大きな利点であるように思う

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

3 交通結節点へのアクセス機能強化施策(協議会意見)

OR7.10より宮本橋停留所を対象に**サイクル&バスライド実施**



実施場所

サイクル&バスライド駐輪場
新潟市中央区姥ヶ山一丁目
(セブンイレブン新潟弁天通橋店地先)

駐輪可能台数:20台
※内屋根付き:14台



— 長潟線
— スポーツ公園線
— 京王団地線

周辺を取り巻く状況

- ・対象地周辺エリアは住宅地から停留所まで距離が離れている
- ・一方で、宮本橋停留所には複数路線が停車し高頻度運行

目的

**交通結節点の強化による
公共交通の利用促進**

効果

ラストワンマイルビリティとの
交通結節点を整備することで
路線バスの利用促進に寄与

※今後、アンケート調査やバスICデータを
活用し、効果検証を実施

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

4 未来に向けたバス利用促進事業

目的

中高校生世代の公共交通の利用促進を通じて、将来の公共交通利用者を確保する

実施状況と効果

○R7.12現在、対象者の内、14,646人が引きかえており、引換率37.2%
(R6年度実績:16,910人 ※引換率42.5%)

○本キャンペーンをきっかけに、りゅーとカードを新規で発行した人は3,172人
(R6年度実績:6,469人)

➡本事業の実施が、**中学生・高校生のバス利用促進・新規利用の掘り起こしに寄与**

内容・対象	年度	対象者数	引換数	引率	りゅーとカード 新規発行者数
中学生・高校生世代に対して、 りゅーとポイント3,000円分をプレゼント	R6年度	39,835名	16,910名	42.5%	6,469名
	R7年度	39,398名	14,646名	37.2%	3,172名

※R7申請数はR7.12末時点

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

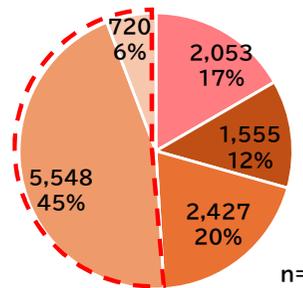
4 未来に向けたバス利用促進事業

アンケート結果

○通学以外(お買い物やレジャー)の場面でも、路線バスが一定数利用されている
 ○一方で、利用頻度は年に数回以下が半数以上であり、さらなる利用促進が必要
 ➡本事業参加者の約半数が路線バスの利用が増加しており、利用促進に一定の効果

【基礎情報】 対象者:R7.4.1時点で新潟市内に住民票を有する中高生世代
 集計期間:R7.7.22~R8.1.20 回答者:14,123人

普段の路線バスの利用頻度

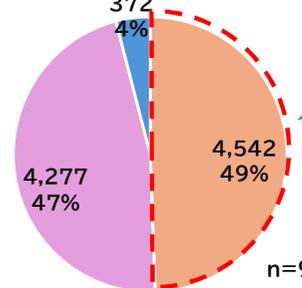


n=14,123

●ほとんど毎日 ●週に数回 ●月に数回 ●年に数回 ●乗ったことがない

【本事業以前】
 回答者の半数以上が
 年に数回以下の利用に
 留まっている
 ➡路線バスにより多く
 乗車してもらう必要

ポイント交換後のバス利用回数の変化

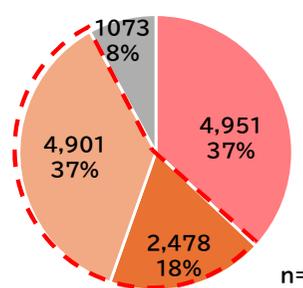


n=9,191

●バスを利用する回数が増えた ●変わらない ●バスを利用していない

【本事業後】
 回答者の約半数が
 路線バスの利用が増加
 ➡本事業が
 中高生世代の路線
 バスの利用促進に寄与

普段の路線バスの利用目的

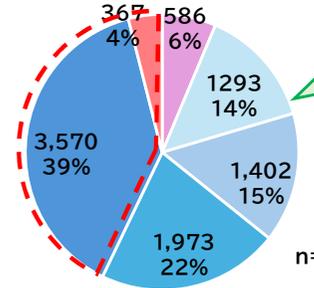


n=13,403

●通学 ●日常生活(お買い物など) ●レジャー(お出かけなど) ●その他

【本事業以前】
 回答者の約半数が
 通学以外でも
 路線バスを利用
 ➡休日の移動手段とし
 ても、路線バスが一定
 数選ばれている

ポイント交換後の路線バスへの支払金額



n=9,191

●0円 ●100円~1000円 ●1000円~2000円 ●2000円~3000円 ●3000円以上 ●(定期券購入)

【本事業後】
 回答者の約4割が
 3000円以上または
 定期券を購入
 ➡本事業が
 中高生世代の定期券購
 入や路線バス利用を促進

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

5 バスでおでかけキャンペーン事業

目的

バス利用への行動変容のきっかけをつくり、新たな利用者の獲得、定着を図る

実施状況と効果

- 開催をきっかけに路線バスに「初めて乗る」・「久しぶりに乗る」利用者が一定数存在
 - ➡本事業の実施が、**路線バス**を利用するきっかけづくりやバスの利用促進に寄与
- 併せて、各区と連携して施設・イベントとのコラボ企画も実施
 - ➡本事業により**バスの利用促進に加えて、まちに賑わい創出への相乗効果**

実施回	キャンペーン名称	実施日	対象路線	参加条件	参加者数
第一弾	新潟市内バス無料デー	R6.11.10 (日)	新潟市内 で運行 している バス路線 (路線バス、 区バス、 住民バス) ※一部 対象外有	特に無し	約23,000人 (平時の約2倍 の利用)
第二弾	アプリでバス無料デー	R7.3.20 (木・祝)		バス利用者情報の提供に ご協力いただける方	約5,300人 (平時の約1.5倍 の利用)
第三弾	//	R7.8.24 (日)		//	約3,700人 (平時の約1.3倍 の利用)
第四弾	//	R7.10.19 (日)		//	約5,100人 (平時の約1.4倍 の利用)

➡ バス無料デーと同時に**協力施設イベントとのコラボ企画**を開催

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

5 バスでおでかけキャンペーン事業

アンケート結果

- 将来の公共交通を支える若い世代をはじめ、バスの継続利用に向けたきっかけづくりに寄与
- バス無料デーが当日のまちのにぎわい創出に寄与しているほか、コラボイベントの開催が無料デーの施策効果を高めている

バスの利用促進 (新たなバス利用者の獲得・定着)

☆新たな利用者の獲得

- 参加者のうち、第3弾の約2割、第4弾の約3割が初参加
- 参加者の約6割が、バスをあまり利用しないライトユーザー(月に数回未満の利用頻度)

普段バスを利用しない方、少ない方が
バスに触れるきっかけづくりとなっている

☆バス利用の定着

- 参加者の約5割が「今よりバスを利用する」と回答
- 参加者のうち、約3割が「無料デー後のバス利用が増えた」と回答 ※20歳未満では約5割

バス無料デーがバスの継続利用に向けた
きっかけづくりとなっている

まちのにぎわい創出 (コラボイベント等)

☆外出時間、消費額などの増加

- バス無料デー当日は普段の休日と比べて、約6割の参加者の「外出時間」「訪問箇所」が増加、約5割の参加者の「消費額」が増加
- 第4弾の参加者のうち、約4割が「コラボイベントをきっかけに無料デーに参加」と回答

バス無料デーが当日のまちのにぎわい創出に寄与

コラボイベントの開催が無料デーの施策効果を
高めている

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

6 高齢者おでかけ促進事業「シニア半わり」

○新潟市に居住する65歳以上の住民を対象に、新潟交通のバスICカード「シニア半わりりゅーと」や紙券「シルバーチケット」でバス運賃を精算することで、**運賃が半額**となる取り組み（H28.9より本格実施）

➡R4年度以降は**参加枚数が増加傾向**にあり、本事業の実施が、**高齢者層のバス利用促進に寄与**

年度	対象者数(人)	参加枚数(枚)	参加率(%)	参加者数の対前年比
R4	234,464	37,410	16.0	
R5	234,291	37,645	16.1	+235人
R6	234,267	38,909	16.6	+1,264人
R7	233,731	39,670	17.0	+761人

※各年8月時点

アンケート結果

○高齢者のバス利用による「おでかけ回数の増加」や「買い物消費額の増加」等の効果を確認

【基礎情報】 対象者:各年時点のシニア半わり参加者 集計期間:H29~R2 回答者:延べ約10,700人



図 シニア半わり参加年数別のおでかけ回数 ※非参加者はH29調査データを使用 ※無回答等を除く



図 シニア半わり参加年数別の買い物消費額 ※非参加者はH29調査データを使用 ※無回答等を除く

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

7 スマホ教室・カロリーメイト配布

【スマホ教室】

○「にいがたバス乗換案内サイト」の使い方説明し、バスの利用促進に繋げる取組み
(市・新潟交通・ソフトバンク)

◇主なターゲット

高齢者 (ただし全世代参加可能)

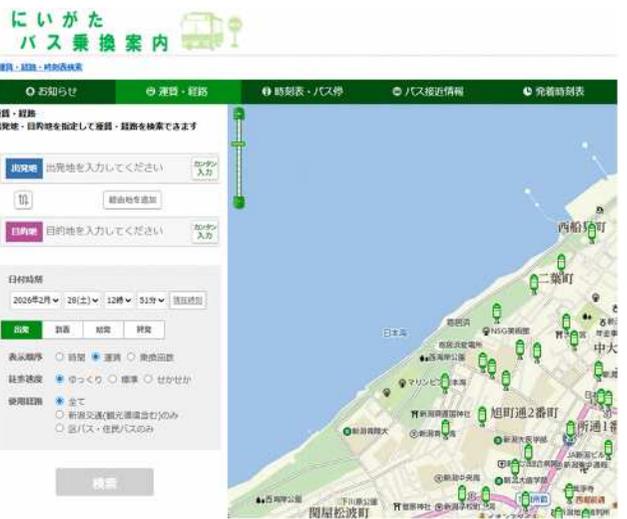
◇開催回数

R4年度：2回/年

R5年度以降：6回/年

◇のべ参加人数

約400人



※引用：にいがたバス乗換案内サイト

【カロリーメイト配布】

○大塚製薬の商品「カロリーメイト」に、新潟交通

および新潟市により受験生応援メッセージなど

記載し、バスを利用して大学入試や高校受験

に向かう受験生にカロリーメイトを配布する取組み

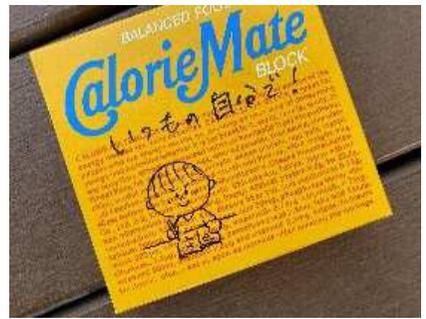
◇開催回数

R6年度：1回

R7年度：2回

◇のべ配布人数

約1000人



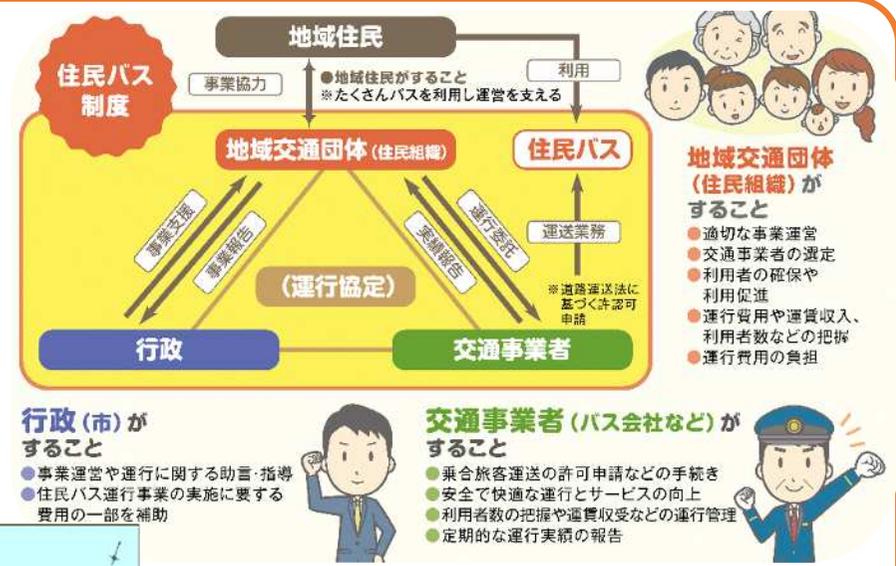
2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

8 区バス・住民バス運行など

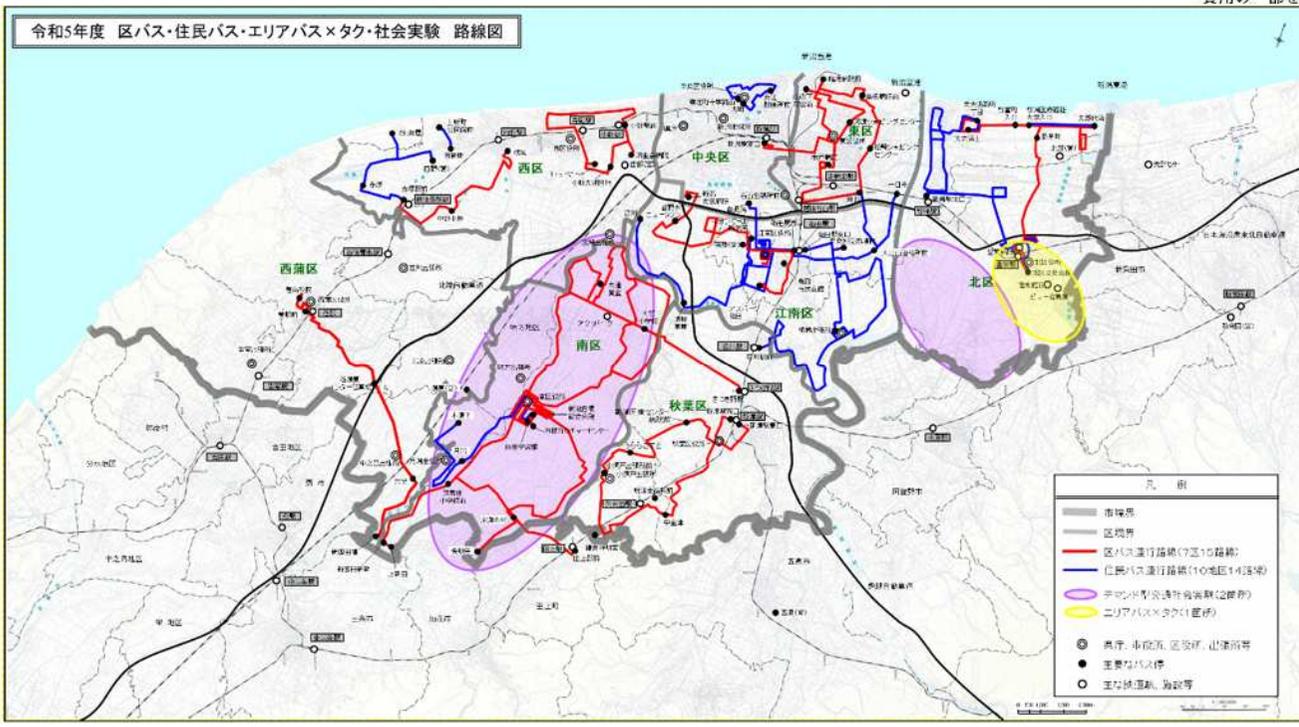
○区内の公共施設や病院等への細かな移動ニーズや区のまちづくりに資することを目的に区バスやエリアバス×タクを運行
 ※区バス : 中央区を除く7区の計15路線
 ※エリアバスタク: 1エリア(北区長浦地区)

○地域住民が主体となって住民バス等の公共交通を運行している地域に対し、その特性に応じて、運行経費の70%~85%を補助※10地区14路線



行政(市)がすること
 ● 事業運営や運行に関する助言・指導
 ● 住民バス運行事業の実施に要する費用の一部を補助

交通事業者(バス会社など)がすること
 ● 乗合旅客運送の許可申請などの手続き
 ● 安全で快適な運行とサービスの向上
 ● 利用者数の把握や運賃収入などの運行管理
 ● 定期的な運行実績の報告



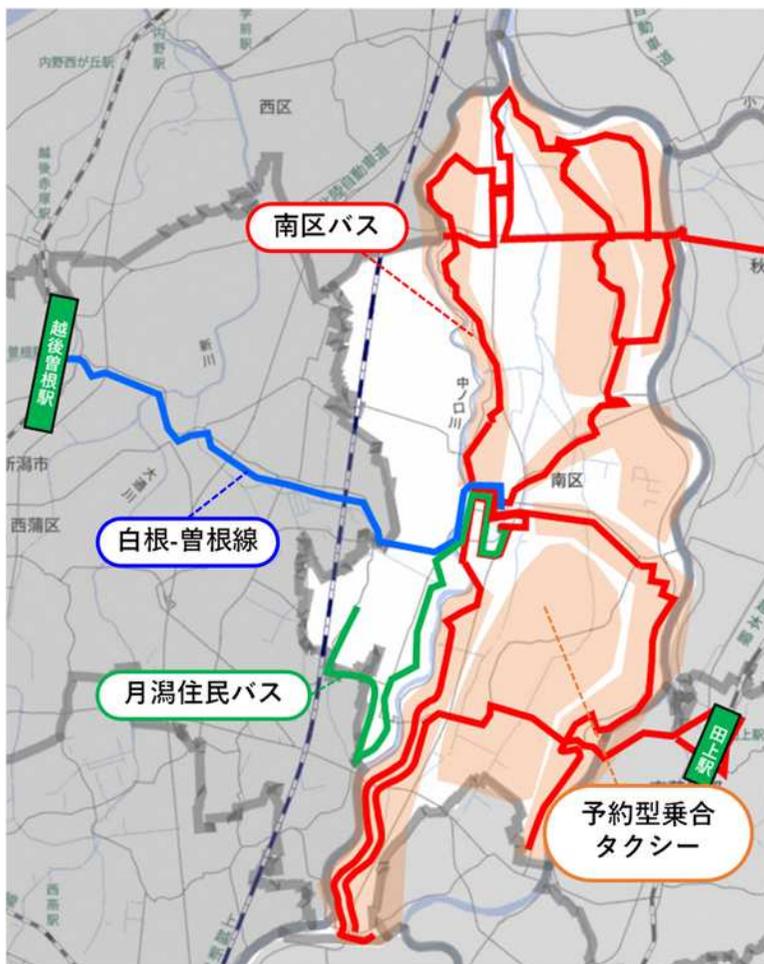
区バス : 7区15路線
住民バス : 10地区14路線
エリアバスタク : 1地区

2. R7年度の実施施策

R7年度の主な実施施策

9 生活交通効率化事業

○新潟市南区及び周辺地域を対象として、**利便性向上に資する生活交通改善の検討**



対象エリア・路線

対象地の公共交通

- ・運行経費削減のため、生活交通を限界まで減便（これに伴って利用者も減少）
- ・利用減少や物価高騰等により市の負担額が増加したことで運行継続が困難（負のスパイラル）

R7年度事業の内容

- ・**民間事業者では運行が厳しいエリア**における地域公共交通の維持・確保に向けた**効率化検討**
- ➡併せて、住民への意向調査結果から把握した移動需要に基づき、利用者にとっての利便性向上を図りながら持続可能な運行形態を検討

本施策の目的

**利便性向上と利用者増による
持続可能な生活交通の実現**

※R7年度の検討結果に基づき、R8年度には社会実験を予定